

一九一四年の世界戦争は、この戦争をひき起した資本主義的危機を解決することができなかつた。なぜならば資本主義が××××のみを唯一の可能な解決とする段階に到達してゐたといふことが、正にこの危機の特徴だつたからだ。資本主義の内部に於ける唯一の論理的な解決は、一切の競争者を粉砕し併呑する單一の帝國主義的支配を確立することだつたらう。だがこれは、實際上資本主義の發展の不均等のために不可能にされてゐる。だからブルジョアジーは資本主義世界に於て××××を大部分敗北させることに一時的には成功したが、その結果は擴大された規模に於て恐慌を復活させることになり、一聯の諸矛盾を他の諸矛盾によつて置き換へることになり、また英獨の對立を英米の對立によつて置き換へることになつたのだ。

「戦争はイギリスとドイツとの間の諸對立を、それと共にまた合衆國とドイツとの間の諸對立をも、それ自身の仕方です清算しはしたが、合衆國とイギリスとの間の相互關係に關する問題はこれを解決しなかつたばかりでなく、反つて初めてそれを世界政治の根本問題たらしめた。……だから先般の戦争は帝國主義的支配についての問題解決たる本來の世界戦争の單なるヨーロッパ的な前奏曲だつたのだ」(第三回世界大會、世界情勢についてのテーゼ)。

當時戦争にすぐ續いて起つた諸事件が初めて熱病的に現はれた時、英米の對立は極めて速かに前方へ突進するかのやうに見えた。同じ第三回世界大會のテーゼは、アメリカの海軍綱領が「最近數年のうちに海上に於ける米國旗の優勢を確立しよう」と努力する』ものであることを確認し、それから次のやうな結論を引き出してゐる。

「しかししてイギリスはドイツに對して勝利を占めたにも拘はらず、自動的に後退させられて第二流の強國となるか、さもなければ近い將來に合衆國と生きるか死ぬかの闘争を行ひ、これまで數年間に獲得した力を試すことを餘儀なくされるだらう」。

この英米のどたん場の闘争がま近に迫つてゐるといふ意識は、戦争直後イギリスやアメリカのブルジョアジーをも亦た支配してゐた。一方に於ては歐洲戦争を有効に利用したことによつて大規模に促進された合衆國の進出、他方に於ては競争國ドイツを首尾よく打破り分捕品の主要部分を獲得したイギリス帝國主義の支配的な自信と勢力の絶頂にあるといふ感じ、かうした情勢は、殆んど戦争がまだ終らない前から、世界の覇權のためのどたん場の闘争に直接たづさはらしめた。一九一八年一月に初めて作成されたウィルソンの平和綱領でさへも、世界の覇權に對するアメリカの要求の最初の表現だつた。それは今日ヨリ徐々と注意深い形態で作られてゐるアメリカの本質的な諸要求を尙早未熟な形態で示したものだつた。曰く、「海洋の自由」(即ち海洋に對するイギリスの支配の粉

碎)、『門戶開放』(即ちアメリカの侵略と經濟的征服とのためにすべての植民地を開放すること)、全植民地の國際的管理(即ち世界の再分割)、及び常にアメリカを司會者とする世界帝國主義の聯盟の設置。この案は英佛の鋭い反對にあつて粉碎された。當時はまだ戰略上の支配的勢力は英佛帝國主義の側にあつたのだ。だからウィルソンの海軍綱領はウィルソンの平和綱領の必然的完成だつた。英米の對立はこの線に沿ふてすでにヴェルサイユを支配してゐた。かうして吾々はアメリカの海軍大臣ダニエルの日記のなかで次の文句を読むのだ。この會議に於てイギリス人はアメリカ人に向つて彼が見て『事實上の最後通牒』だとする次のやうな要求をした。

「ロイド・ジョージ氏は、合衆國がその大海軍綱領の實行を中止することに同意しない限り、國際聯盟をもつて支持し難いものだ」と考へてゐる。大英帝國は、いかなる國にしる他國が海洋支配權を握ることに同意する旨を述べることにはできない。

余はこの事實上の最後通牒に回答を與へなかつた。討論は現在のところではそれで終つた。アメリカの國務大臣に向つて、國際聯盟はアメリカの海軍綱領が放棄されるか否かに依存する、といふやうな動議が出されたといふことを、諸君は何と考へられるか? 余はこの夜充分眠らなかつた。

會議はかゝる奇怪な脅迫の後混亂を靜める時間を與へるために閉會されねばならなかつた」
(ムーア『アメリカの海軍挑戦』ニウヨーク、一九二九年に引用)。

同時に影の形に添ふ如くついて廻るウィルソンの代理人ハウス大佐は、イギリスからウィルソンに向つての一九一七年七月三十日附の私文書のなかで次のやうに報告してゐる。

「余のイギリス到着の殆んど直後に、余は合衆國に對する對立を認めた。……兩國の關係は戰前のイギリスとドイツとの間の關係と同じ性質を帯び始めた」。

だが英米の對立のこの異常に急速な成熟は、戰後の株式騰貴の人爲的な崩り立てに伴ひまたそれを反映するものであつて、なほ時期尙早であつた。資本主義體制は非常に弱くなつてゐたために、かうした大きな軋轢を即時解決することはできなかつたのだ。一九二〇—二一年の經濟的崩壊はその尖鋭化を抑止した。何よりも先づ長い沈滞期の初めから今日まで續いたイギリス帝國主義の崩壊は、ヨリ攻撃的でない温和な方針への移行を餘儀なくさせた。一九二一—二二年のワシントン會議に於て、合衆國は戰はずして、單にその優越的な金融力の脅威によつて、第一級の軍艦に關して海洋の平等を形式上獲得することに成功したし、また日英同盟を形式上廢棄させることにも成功した。確かにかうした勝利は大部分紙の上だけのものだつた。その後、イギリス帝國主義が困難な情勢に

あつて單なるかけ引をやつたに過ぎなかつたといふことや、『均等』といふ形式の下に海洋支配のため、の闘争を繼續する意圖を充分に持つてゐたといふことが明かになつた（それは一九二四年のマクドナルド政府によるワシントン型新巡洋艦の建造や、一九二七年のデュネーヴ會議や現在のロンドン會議に於ける討議の停滯のよく示すところだ）。また同様に日英同盟も、形式上こそなくなつてはゐるが、事實に於ては維持されてゐた。

それにも拘はらず、この資本主義の再建時代には英米の對立は比較的後方へひつ込んでゐた。イギリスは、フランスの支配に對抗して均衡を保つためにアメリカの援助を必要とした。一九二三年にこれの代償が支拂はれた。それはアメリカの債務協定の難かしい諸條件を承認することだつた。そしてヨーロッパの再建に於ける英米の『協力』（競争者同志の非常にはつきりした協力）の時代たるドーズ時代が續いた。この時代の性質は、社會民主主義者やブルジョア改良論者が、英米金融資本の好意ある獨裁の下に組織化された世界資本主義の『新時代』が來たかのやうに宣傳することを可能にした。この幻影は或る程度まで多くの共產主義者等の用語のなかにまで反映された。彼等は『英米の協力』が國際政治の決定的な要因だと説明した。

この主張がどんなに『正しかつた』かといふことは、一九二七年の再建時代の終りになつて的確

に示された。デュネーヴ海軍會議の決裂に際して英米の對立は直ちに完全にその姿を現はした。この時以來、この對立はいかなる方面からも公然と國際政治の中心問題と認められてゐて、アメリカの海軍綱領（一九二七年末）、英佛海軍協定（一九二八年）及びそれと同時に起つた鋭い論議、専門家會議に於ける長つたらしい論争（一九二九年）及びヤング案（それはドーズ専門家委員會とドーズ案の圓滑な成果に對して鋭い對立をなしてゐる）、國際決済銀行を廻る闘争を経て、最後にロンドン海軍會議（これまたワシントン會議の圓滑な成果に對して激しい對立をなしてゐる）の嵐のやうな場面に至るまで、絶えず大きくなりながら發展してゐる。

注意すべきことは、今までの軋轢の最高點が一九二七年にあり、この最高點が一九二七年夏のアメリカに於ける部分經濟恐慌の最初の勃發と時を同じくしてゐることだ。この恐慌は現下の一般恐慌の警戒標であり前奏曲だつたのだ。だが一九二七年の部分恐慌は、現在の一般恐慌や現在すでに現はれてゐるその影響に比べると、コップのなかの嵐みたいなものだつたのだ。

四 英米資本主義間の葛藤の本質

一九二五年の××主義インタナショナル第五回擴大執行委員會に於て同志ジノヴィエフがやつた國際情勢に關する報告は、英米の接近を強調し過ぎる理論に反對して英米對立の問題をかなり詳細

に取扱つてゐて、次の十箇條を英米帝國主義間の對立の決定的な簡條として並べてゐる。

- 一、國際金融方面に於ける世界ヘゲモニーのための鬭争、
- 二、カナダ、
- 三、オーストラリア、
- 四、メキシコ、
- 五、石油、
- 六、販賣市場、
- 七、軍備及び海軍力、
- 八、國債、
- 九、原料、
- 十、ドーズ案、

かうした表は明かに今日では幾分これを改めまた著しく擴げる必要があるだらう。だがその主要な點はなほ變らずに一層力強く作用してゐる。國際金融方面に於ける鬭争は、一九二五年にイギリスがイギリス磅と弗との競争を可能にするために金本位制に復歸して以來、またそれに伴ふ金保有

高争奪鬭争によつて、世界の金融中心としてのロンドンとニューヨークとの間の競争に於けるイングランド銀行の割引率と『聯邦準備銀行』の割引率との激烈な變動や交互關係によつて、一新段階に入つてゐる。更らにまたカナダやオーストラリアに認められるアメリカの自治領への侵入は、この葛藤を一層押し進めた。鬭争は今や益々植民地に、特に印度やエヂプトに擴大された。メキシコはすでにアメリカの決定的な統制の下に入つてゐる。現在の瞬間では、鬭争は南アメリカに關して最も激しく荒れ狂つてゐる。だが何よりも先づ支那が一九二五年以來最も激烈な鬭争場面として發展した。最後にドーズ案はヤング案と國際銀行とを廻る一層鋭い鬭争の出發點となつた。他方海軍力のための全鬭争はデューネーヴ會議及び最近のロンドン會議と共に緊張の一新段階に達してゐる。

それにも拘はらず、これらの變化はすべて單に規模や方向や發展段階が變つたに過ぎない。根本特徴は常に同一だ。一年一年アメリカの擴大は進行して、益々強くイギリス帝國主義の支柱を脅威する。一年一年イギリスの没落は進行して、英帝國の遠心的傾向が強くなり、そのために益々絶望的な對策が講じられる。この増大し行く不釣合は必ず公然たる衝突を導かずにはおかない。

鬭争の主要點は便宜上次の五つの型にまとめることができる。

一、世界市場争奪鬭争、

第二部 帝國主義的對立の尖鋭化

- 二、原料爭奪鬭争、
- 三、植民地及び半植民地地方の爭奪鬭争、
- 四、國際的金融至上權の爭奪鬭争、
- 五、戰略上の鬭争及び軍備、

情勢の本質的な點は次の點にある。即ち、合衆國は明かに巨大な步調で前進する上向勢力でありイギリスは、衰微に向ひつゝありその最強國としての地位は益々疑はしくなりつゝあるとは言へ、なほ多くの場合支配的獨占的地位を世界に占めてゐるといふことがそれだ。この不釣合が葛藤の根なのだ。

世界市場に關しては、輸出總額をとつて見れば、イギリスは一九一三年以來すでに指導的地位を失つてゐる。イギリスの輸出は、一九一三年に於て二十五億五千六百萬弗に達し、従つてアメリカの輸出總額二十四億四千八百萬弗を凌駕してゐた。一九二七年には、アメリカの輸出總額は四十七億五千八百萬弗に達し、イギリスのそれは三十四億四千七百萬弗だつた（國際聯盟統計年鑑）。だがこのなかには、アメリカが以前半植民地だつた時代の反映である食料品や原料品の巨額の輸出が含まれてゐる。もし工業上の競争、即ち製造品の輸出といふ眞の競争場面をとつて見るならば、一

九二七年のヂュネーヴ經濟會議に於けるイギリスの覺書によれば、一九一三年に於けるイギリスの製造品輸出は三億九千八百萬磅に達してゐたのに對し、アメリカの製造品輸出は一億五千九百萬磅であり、一九二五年に於てはイギリスの輸出が五億八千九百萬磅なるに對し、アメリカの輸出は三億五千六百萬磅だつたことが分る。一九二七年に於けるイギリスの製造品輸出は、商務省の報告によれば、五億六千四百萬磅に達し、アメリカの『完成製造品』の輸出は一九二七―二八年に於て二十億六千六百萬弗即ち四億二千二百萬磅だつた。製造品は國が違へば分類も違ふものだから、これらの數字を絶對的に比較することはできない。だが競争の決定的な方面即ち製造品輸出の方面で鬭争が最も緊張した點に達してゐて、アメリカがイギリスの古くからの支配に正に追いつかうとし始めてゐることは明かだ。

ひるがへつて商業方面と海洋とに於ける支配を決定的に反映してゐる航海業について見ても、世界の總噸數中にイギリスが占めてゐる割合は一九一四年には千八百八十萬噸即ち四一%、アメリカのそれは二百萬噸即ち九%だつた。一九二八年にはイギリスの占める割合は千九百七十萬噸即ち三〇%、アメリカのそれは千百萬噸即ち二一%だつた。こゝでも亦たイギリスはなほ支配的な地位を世界に維持してゐる。だがそれは非常に大きな地歩を失ひつゝある。

原料品に關しては、イギリスはゴム（世界貯藏高の四九%）、羊毛（四五%）、錫（四四%）及び金採掘高（七〇%）に於て第一位にある。アメリカは石油（七〇%）、綿（五九%）、銅（五三%）、石炭（四三%）及び鐵鑛（四〇%）に於て第一位にある。兩國はこの方面では、從來自分たちが依存的であつた地方に自分自身獨立した原料源泉を發展させようとして鬭争してをり（イギリスの全世界に於ける油田争奪鬭争、エヂプト及びスダンに於ける棉花栽培の争奪鬭争等々、アメリカのフィリッピン及び南アメリカに於けるゴム樹栽培計畫等々）、或はまた、相手方に對し關稅壁を設けるために自己の權力を利用しようとして鬭争してをる（ゴム關稅の實驗）。

國際的金融^{II}及び資本輸出に關しては、一九二八年に於けるイギリスの海外投資總額は、ロバート・キングスリー卿によつて三十九億九千萬磅と評價された（『エコノミック・ジャーナル』一九二九年三月）。即ち名目價值によれば戰前とほぼ同じ額であるが、實質價值から言へば減少してゐる。他方に於て合衆國は、一九一四年には二十五億弗の債務國だつたのに、一九二八年には七十億弗の戰債を含めると百六十億弗の債權國にその地位を轉じた（『合衆國の國際金融上の地位』——全國産業會議局編纂、ニウヨーク、一九二九年）。戰債を除いてもアメリカの貸金總額は二十二億磅となり、戰債を含めてイギリスの貸金額が三十九億九千萬磅なのに對して、三十二億磅に達するだ

らう。こゝでも亦た、イギリスはなほ支配的な地位を世界に維持してゐる。だがそれはこの國の掌握してゐる獨占到基くものであつて、その蓄積は漸減しつゝある。然るに合衆國は、著しく速かな蓄積を行ひつゝイギリスの全所有を超越す點に近づきつゝあるのだ。

もし吾々が目を植民地及び半植民地地方に轉ずるならば、何よりも先づ、そこにアメリカの上向とイギリスの没落との問題が極く鋭く提出されてゐることが認められる。即ちオーストラリアに於ては、アメリカの總輸出の占める割合は一九一三年の一・九%から一九二八—二九年には二四・三%に増加してをり、同期間内にイギリスの占める割合は五九・七%から三九%に減少してゐる（オーストラリアに於ける經濟及び貿易に關する報告、一九二九年）。南アメリカの重要諸國即ちアルゼンチン、ブラジル及びチリーでは、アメリカの總輸出の割合は一九一三年の一五%から一九二八年には二六%に増加してをり、イギリスのそれは同期間内に二八%から二〇%に減少してゐる（英蘭南米銀行頭取アール・デュー・ホーズが同行の年次集會で言つたところ、『タイムズ』一九二九年十月十七日）。支那では、アメリカの輸出の占める割合は一九一三年の六%から一九二六年には一六%に増加してをり（『ニウ・リパブリック』一九二九年八月二十八日）、他方イギリスのそれは一九二三年の一六%から一九二三年には一二%に減少し（海外市場監視に關するバルフォーア委員會）、

その後も絶えず更らに一層低下しつゝある。イギリスの最後の壘たる印度に於てさへ、アメリカの占める割合は一九一三年の二・五%から一九二八―二九年には七%に増加したに反し、イギリスのそれは一九一三年の六四%から一九二八―二九年には四五%に減少してゐる（一九二八―二九年に於ける印度貿易概観、印度政府 一九二九年）。だからイギリスが全く政府による統制を行つてゐない半植民地地方で、アメリカがすでにイギリスを撃破してゐることは明かだ。たゞ直接の植民地地方に於ては、イギリスは政府のあらゆる援助や支持によつて、またあらゆる特權的地位等々によつて、やつと急速に老衰しつゝある指導者としての地位をなほ維持することができてゐるにすぎない。

最後の問題は海上軍備及び海軍力である。こゝでは現在までのところイギリスは、ワシントン會議で名目上第一級の軍艦に關して平等の地位を許しはしたが、なほその至上權を維持することができてゐる。ロンドン海軍會議の開會に當つて出版された公式報告によれば、アメリカが總噸數五十二萬五千噸に達する第一級軍艦十八隻を所有するに對し、英帝國は總噸數五十五萬六千噸に達する第一級軍艦二十隻（ロドネー型最新式の巨艦二隻を含む）を所有してをり、更らにアメリカが一萬噸級巡洋艦一隻と建造中のもの九隻とを所有するに對し、イギリスは十一隻と建造中のもの二隻とを所有してゐる。その上アメリカが巡洋艦十隻（その一部はなほ建造中）を所有するに對し、イギ

リスは四十六隻（その一部はなほ建造中）を所有してゐる。だから戰鬪艦及び巡洋艦の總計に於てアメリカの七十萬噸に對し、イギリスは九十二萬噸を所有してゐる譯だ。こゝでもまたイギリス帝國主義は現在までのところではその優越的地位を維持することができてゐる。だがアメリカ帝國主義は、今やその新海軍綱領とロンドン會議に於ける外交とを巧に結びつけて、このイギリスの地位を終極的に粉碎しやうと努めてゐる。

かうしてあらゆる方面に亘つて見渡すと皆同一の様相を示してゐる。一方に於ては、イギリス帝國主義が、絶えず没落の道を辿りつゝあるにも拘はらず、またその地位は益々不確實になりつゝあるとは云へ、その掌握する豫備軍と獨占との力によつてなほ世界に優越的な地位を維持してゐる。他方に於ては鋭い上向の道を辿りつゝあるアメリカ帝國主義が、まだ世界的規模に於ては完全に確實だとは言へないが明らかに優越せるその權力によつて、あらゆる點でイギリスのこの地位を脅威してゐる。そこから益々尖鋭化する葛藤が生じるのであつて、しかも正にこの段階に當つて世界經濟恐慌が發展したのだ。それは全過程を極度に促進するのだ。

この情勢は主としてブルジョア・ジャーナリストからだが、また屢々共產主義者方面からも、恰かもアメリカによる世界支配がすでに確立されたかのやうに、またイギリス及びその他の帝國主義

がすでにアメリカに比して第二次的な從屬的な地位にあるかのやうに述べられてゐる。イギリス帝國主義は著しく没落し衰微してをり、またアメリカ帝國主義は資源と動力とに於て著しく優越し資本輸出並びに世界市場への經濟的進出に於て非常に活躍してゐる等々のことがあるので、右のやうな印象は一部分無理からぬことではある。だがかゝる見解は情勢を眞に理解しやうとする場合に吾々を邪道に導くものだ。それは、なほ發展され戦ひ抜かれねばならない衝突をすでに終つて解決されてしまつたものと考へるのだから、危険な見解だ。言ひかへれば、この見解は帝國主義世界の焦眉の對立たる英米の對立の正に決定的な特徴を見逃し隠蔽するのだ。

イギリス帝國主義は没落に瀕しつゝあるとは言へ、自己の實力に不相應な世界の支配的獨占的地位をなほ維持してゐるのだ。

アメリカ帝國主義は、その老大な上向力にも拘はらず、自己の力に相應せる、且つその強力な進的な勢力伸張にとつて死活條件ともいふべき世界の獨占的地位を、まだ占めてはゐる。

正にこの益々尖鋭化する不釣合から、不可避的な衝突である世界再分割のための鬭争がヨリ眞近に切迫してくるのだ。

五 世界經濟恐慌が英米對立に及ぼす影響

一九二九年の夏には、英米の對立はすでに兩國の政治家たちが、『誤解を解くため』にと稱して例の『平和的な』諸方策をとり始めたほどの程度と緊張とに達してゐた。この方策は、すでに一九二九年の英米商議以來周知のものであつて、葛藤の發展の非常に進んだ段階にふさはしいものなのである。

マクドナルドの新労働黨政府は、アメリカ政府と或る會議を開くために交渉を始めた。これはポールドウインの意見によつてポールドウインとフーズァーとの間に會議を計畫したイギリス外務省の一貫せる政策に一致するものだつた。だが政府が變つたために、恰かも新時代が開始されたためでもあるかのやうな外觀を呼び起した。

このマクドナルドとフーズァーとの會見は一九二九年十月に始まつた。商議の結果は、『戦争などといふことは考へられない』とか、『平和協定を前にしては恐らく當然だつたかも知れない危惧や疑惑に由來する不信や邪推は今後もはや吾國の政治に影響することを許さない』とかいふことを發表した共同聲明であつた。更らに、誰にも分る通り『積極的な熟考と詳細な調査の對象とされねばならなかつた』若干の『問題』が充分討議されたことや、彼等が一つの海軍協定に近づいたことや、意見の一致に達するため他の海軍諸強國と商議するのがいゝと思はれることなどが發表された。そ

れ以上具體的な結果は發表されなかつた。

さうしてゐる間に、マクドナルドとフリーヴァーとの商議の後ロンドン會議の召集を前にして、新しい事情が発生した。マクドナルドとフリーヴァーとの會見の後十四日經つて、十月二十四日にアメリカの取引所大動亂が勃發した。それはずつと前から準備されてゐた世界經濟恐慌を曝露し惹起するものだつた。

實際に於てこの新しい要因は決して晴天の霹靂ではなかつた。それはすでにずつと前から豫期されてゐたものであつて、もはや時期遅れのものだつた。それに先行するものとしてすでに一九二七年夏の部分恐慌があつたし、またその直接の先驅者としては一九二九年三月、それに續いて八月に於けるニウヨーク取引所の重大な震撼があつた。また初夏以來生産も減少してゐたのだ。一九二七年以來その到來が益々明らかになりつゝあつた恐慌の發展を暫時の間部分的に妨げたり遅らせたりの諸方策、賦拂制度の極度の擴張等々による國內市場の人爲的な煽り立てや投機を目的とする益々擴大されゆく信用ピラミッドの建設のやうな諸方策、これらすべては、恐慌が始まると、それだけ益々この恐慌を完全な破壊的なものとした。それは僅か數週間のうちに四百億弗といふ天文學的な額に達する名目價值をまがふかたなく破滅させたのだ。

資本主義の歴史の上で古今史上未曾有のこの崩壊は何を意味するののか？ 資本主義的な意見製造所は、この崩壊を以て投機といふ老大なシャボン玉の避くべからざる破裂であり、「大投機賭博の最後」であつて、この必然的な苦しい淨化の後は産業や生産は健全になる筈だと言つて片付けてしまはうと努めてゐる。この見解が全く皮相的なもので決して現實の問題に近づくものでないことは明らかだ。物質的な基礎がなく、生産や工業や商業や利潤や利潤見込の諸條件に本來的な推進力がなければ、投機の發展や崩壊があらう筈がない。一九二八年及び一九二九年前半のニウヨーク取引所、及び程度こそ低いが、その他の取引所に於ける投機熱は、強化された大量生産や合理化された工業や絶えず増大する利潤が無限に擴大され得るかやうに見えたことが基礎になつて發展したものだ。この投機熱は、注文や生産の縮小の最初の徴候がこの絶えず増大して行く生産力と市場の限りある消化力との間の諸矛盾を曝露するや否や崩壊した。恐慌は實際、アメリカを先頭にすべての指導的な諸工業國に於ける強化された大量生産と合理化との全過程の豫言されてゐた不可避的な結果に他ならぬ。これらのものは「繁榮」を基礎として外觀上の全盛を齎したが、實際はたゞ益々尖鋭化する諸矛盾や諸對立に、恐慌と窮局は戰爭とに導くばかりだつたのだ。増大し行く帝國主義的諸對立の一つの様相を表現するマクドナルドとフリーヴァーとの會見と、同じ基礎的諸過程のもう一つの

様相を表現する世界經濟恐慌とは、實際密接な關聯を持つてゐるのだ。

だがそれ自身尖鋭化する諸對立の一產物である恐慌は、この諸對立を不可避免的に高めるのだ。一九二七年夏の恐慌がジュネーヴ海軍會議の決裂を伴つたと丁度同じやうに、マクドナルドとフーズラーとの商議は世界經濟恐慌及びその影響と時を同じくし、この商議の「友誼的」な音調は、ロンドン會議では益々大つびらになつてきた緊張と曝露されてきた諸對立とを益々著しくしてゐる。

世界經濟恐慌はすでに危機に達してゐた英米の對立にどういふ影響を及ぼしたか？

ブルヂョアの經濟政策家や政治論客たちは、讚美者としての彼等の役割に忠實に、最初から恐慌の一面だけを、即ち彼等が見て一般情勢の觀點からも諸對立の緩和のためにも「有利」だと見得る一面だけを強調することに努めてゐて、何等かの方法で恐慌の根本原因や眞の結果を取扱はうと試みることを怠けた。

第一に彼等は、恐慌の結果起つた貨幣の下落はロンドンとニューヨークとの間に發展した堪へ難い緊張を緩和するだらうといふことや、それによつて工業の再建と投機的でない「健全な」發展のための手段が得られるだらうといふことを指摘した。

第二に彼等は、世界卸賣物價の下落、特に原料品のその下落は、工業生産の生産費を引下けて

世界市場の擴張を容易ならしめるだらうと論ずる。

策三に彼等は、イギリスもアメリカも國內の經濟問題や整理事業を處理することが必要となつたので、戰爭の危機の問題は取り除かれてしまふだらうと指摘する。

恐慌の明々白々たる諸影響を隠蔽しやうと試みるこれらの議論が、いかに詭辯的なものであるかは殆んど指摘する必要がない。

貨幣が下落するといふ議論は、この場合ロンドンとニューヨークとの間に現はれる對立の正に決定的な交互關係を無視してゐる。即ちニューヨークの株式昇騰がロンドンの金相場全體に絶望的な恐慌を齎らしたと同様に、ニューヨーク取引所大動亂はすぐ様ロンドンの情勢の「好轉」の出發點となつた。正にこの對立的關係が恐慌によつて一層高められるのだ。(その上貨幣の下落が新しい投機傾向を齎らし、それがロンドンでイギリスの需要を犠牲とするニューヨークの「牽引力」に對する不平を起させる原因となつたことは、すでに確認されてゐる)。のみならず、貨幣の下落それ自身が資本輸出上に於ける競争の激化の出發點となるのだ。

原料品の下落が有利な影響を及ぼすといふ議論はこれまた次の事實、即ち原料生産諸國、どこよりも先づイギリス帝國主義にとつて最重要な植民地諸國の貧窮化が正に世界市場の狹隘化を齎らす

ものであつて、従つてオーストラリアで最近制定された輸出禁止法や禁止的保護關稅のやうな諸方策が不可避的に生じてくるといふ事實を無視してゐる。

だが何よりも先づ「英米の諸對立が緩和される」といふ議論は、イギリスとアメリカとの經濟生活及び政治に及ぼす恐慌の現實の影響を完全に無視してゐる。こゝでは真相は極く明瞭であつてそれを隱蔽することは不可能である。ブルヂョア評論家は、問題を深く考察しようとする努力を全然してゐないと言へ、彼等でさへも、恐慌の不可避的な影響はアメリカの輸出の激増と世界的規模に於けるダンピングの危険であらねばならぬといふことを承認せざるを得なかつたのだ。

然らば恐慌が帝國主義的世界情勢特に英米の對立に及ぼす眞に根本的な諸影響は何か？

恐慌第一の作用は、すべての指導的諸工業國による、狹隘化し行く世界市場への輸出増加の競争——それはすでに極端に行はれてゐる——の非常な強化である。

合理化によつて非常に高められた生産装置は、すでに恐慌の成立のための原動力の一つだつたのだが、その生産費を償却し得るためには常に大規模にこれを利用することが必要だ。だが同時に恐慌や尨大な失業や小ブルヂョア層の貧窮化は、國內市場を狹隘にした。國外販賣市場の問題は益々緊急なものとなる。だが穀物その他の原料品を生産する諸國、特に帝國主義的諸工業國の主要市場

たる役割を果してゐた諸國の貧窮化は、世界市場の狹隘化を齎らした。従つて、指導的諸工業國が狹隘化し行く世界市場に於ける自己の分前を大きくするためあらゆる犠牲を拂つて遂行する闘争は、從來以上に狂暴になるだらう。

ドイツは最近年まで貿易は支拂超過であつたし、昨年も僅か四千萬マルクの輸出超過に達したに過ぎないから、ヤング案と巨額の外債の利子とを支拂ふためには、その輸出を極度に増加しなければならぬ。

イギリスは、世界貿易の一般水準が戦前の二二〇%以上に達してゐるこの時期に於て、戦前の價値の僅か八〇%にしか達しない輸出總額を示してゐる。かうした産業上の地位の喪失は當然資本蓄積率や輸出に向け得る資本の減少を意味する。輸出に向け得る資本の眞の大いさを示してゐる商務省の評價によれば、すべての外國貿易に對する信用狀は、一九一三年には一億八千萬磅であつたのが、一九二八年には一億五千二百萬磅に、一九二九年には一億五千百萬磅になつてゐる。これは帝國主義的強國としての地位が絶えず低下してゐることを意味してゐる。この地位を回復し、失はれた産業上の地位を回復するばかりでなく、帝國主義的強國としての地位を維持するために必要な蓄積率や擴張率を恢復するためには、巨大な輸出擴張を必要とする。そしてイギリスの全政策はこの

目的に向けられてゐるのだ。

だがこの輸出擴張運動は合衆國に於ける恐慌の影響によつて、最も力強く現はれてきた。またそれによつて鋭く條件づけられてゐる。今日までのところでは、アメリカの輸出は總生産のほんの僅かな部分しか——約八乃至一〇%——占めてゐない。これに反して、パウレー教授はイギリスの輸出生産の占める割合を、輸入原料の價値と輸送諸費用とを控除して、三〇%に上ると推算してゐる。だがアメリカの輸出がこんな僅かな割合を占めてゐてさへ、すでに認めたとやうに世界市場の上に絶望的な情勢を作り出したのだ。すでに恐慌前からすべての傾向は輸出の重要さを増大する方向に向つてゐた。一九二九年三月にロンドンの『エコノミスト』は次のやうに述べてゐる。

『この周知の事實を詳細に吟味して見るならば、從來のアメリカの製造品輸出は、今後始まるべき洪水に比べれば單なる小波に過ぎなかつたのだといふ見解に達する。一切が世界市場に於けるアメリカの競争の非常な増大を準備してゐる。』(『エコノミスト』一九二九年三月三十日)。

内外貿易局長デューリアス・クライン博士によれば、合衆國商務省に宛てられた外國貿易照會の数は、一九一三年には一日に七百通であつたのに、一九二九年には一日に一萬一千通に達した。一九二九年にフーズラーの序文つきで出版されたクライン博士の著書『Frontiers of Trade』(『貿易

の境界』)は、輸出貿易がアメリカの生産を維持するためには益々決定的な重要さを持つてくることを言明してゐる。

だが取引所大動亂とこれに伴ふ國內市場の貧窮化は、上述の過程を極度に促進する。輸出は愈々明かに決定的な要因となり、アメリカの政治の鍵となつてくる。從來存在してゐたすべてのものを遙かに凌駕するほど大規模な輸出伸張が、アメリカの生産の回復と維持とにとつて缺くべからざる條件となる。アメリカの工業家や金融業者の意見はすべてこのことを強調してゐる。

かうして恐慌によつて惹起された情勢は、不可避的に輸出方面に於て資本主義の歴史上最も激烈な競争に導くのだ。この競争は、必然的にあらゆる方面に於て帝國主義的諸對立の激化となつて現はれ(關稅、原料、居留地、資本輸出、戰略上の地點等々を廻る鬭争)、また恐らくは戦争の切迫となつて現はれだらう。恐慌の一切の個々の作用は、根本に横はつてゐる激化した帝國主義的諸對立の種々の様相の現はれに過ぎないのだ。

恐慌の第二の直接の作用は、資本輸出の方面に於ける衝突の増大である。一九二九年の亢進期中は投機のために一切の資本源泉が吸ひ取られたために、新資本の國外流出は減少した。合衆國の國外に於ける資本發行高の總額は、一九二八年の十五億七千五百萬弗から一九二九年には四億六千二

百萬弗に減少し（ニウヨーク「商業新聞」、イギリスの國外新資本發行高の總額は、一九二八年の一億四千三百萬磅から一九二九年には九千四百萬磅に減少した（「ミッドランドの銀行」の數字）。だが恐慌の一結果である國內に於ける工業の見込みの崩れと安價な資金の過剰とは、必然的に外債に對する乘氣を活氣づける。すでに一九三〇年第一四半期の報告は、合衆國に於ける國外新資本發行高の急速な増加を示してゐる。即ち、一九二九年の第一四半期の新發行高總額は二十一億七千四百萬弗であつたのに對し、一九三〇年第一四半期にはその總額十九億三千八百萬弗に減少してゐるにも拘はらず、そのうち國外に於ける發行高の總額は三ヶ月間に二億五千七百萬弗に上り、一九二九年の最初の六ヶ月間の總額よりも大きいのだ。かうして合衆國に於ける國外新發行高の割合は、一九二八年には新發行高總額の五%だつたのに、一九三〇年第一四半期には一三%に増加してゐるのである。だがこの資本輸出は帝國主義的諸對立、販賣市場の獲得等々の總體と密接に編み合されてゐる。一九三〇年第一四半期のアメリカの資本輸出が五千萬磅であるに對し、イギリス帝國主義は同一期間に於て僅かに千九百萬磅の資本輸出を行つたに過ぎない。こゝに帝國主義的諸對立の尖鋭化が明瞭に現はれてゐる。

恐慌の第三の作用は植民地及び半植民地諸國の統制と侵略とのための鬭争の尖鋭化である。この鬭争は英米の對立の現段階にとつては非常に決定的な重要性を持つものであるから、次節で別に考察しなければならぬ。

恐慌の第四の作用は、ロンドン會議の經過や諸對立のうちに反映してゐる武力衝突の尖鋭化である。

六 英帝國主義の政策と植民地争奪鬭争

全世界の植民地及び半植民地々方の統制と搾取とのための鬭争は、今日では英米帝國主義間の葛藤に於ける決定的な係争問題として益々明瞭に現はれてきた。

帝國主義の内部に於ける最重要な下向勢力と最重要な上向勢力との間の鬭争は、今日ではその中心を植民地に置かざるを得ないし、また世界經濟恐慌の結果この鬭争は決定的に大つびらなものとなつた。

いまなほ世界最大の植民地を領有してゐるイギリス帝國主義は、現實に益々その領有を弱められ能動的な中心及び首都たる役割即ち確乎たる工業及び金融中心たる役割を維持するための經濟力を缺いてゐる。だからイギリスは益々單なる受動的な寄生的な中心と化し、單なる貢納收得者と化しつゝある。一九二九年には海外投資からの正味収入は二億八千五百萬磅であつたに對し、同年に於

ける輸出新資本は、イギリス商務省の評價によれば、僅かに一億五千萬磅に過ぎないといふ事實が見られる。直接イギリスの源泉からは、帝國主義的勢力の伸長のためにはもはやいかなる新資本をも引出すことができない。過程は逆なのだ。収入は從來の源泉から汲み取られ、しかもこの受動的な収入の一部分だけが新たに蓄積されるといふ過程が行はれてゐるのだ。

他方に於て合衆國は、あらゆる制限にも拘はらず、その巨額の輸出によりまたその特に強力な資本輸出によつて益々イギリス帝國內に侵入し、すでに新しい中心としてまた待ち構へてゐる遺産相續人として用意怠りない。經濟恐慌の作用は國外への勢力伸張の擴大を決定的に必要とする。而も合衆國は、そのあらゆる進出地點に於て、所有者としての地位にあり強國としての地位を保持するために鬭争しやうとしてゐるイギリスと衝突するのである。

だがこの過程は戰爭の成熟の過程だ。イギリス帝國主義は、自己の向後の存立にとつて重要な條件たる世界支配をあらゆる手段によつて維持しようとする努力を怠らぬほど、また植民地がイギリスの資本主義的國民經濟にとつて唯一の力の源泉となればなるほど、益々寄生的になる。かくして植民地の領有は、イギリス帝國主義にとつてはそれが向後抑も存立し得るためには益々重大なものとなり、またアメリカ帝國主義とその發展にとつても益々重大なものとなる。この情勢は、特にイギ

リスの經濟的没落と合衆國の國外への勢力伸張欲求とを同時に強めた經濟恐慌の結果として、益々戰爭へと驅り立てるものである。

イギリス帝國主義が今日いかなるディレンマに陥つてゐるかは、イギリス經濟委員會の新報告に非常に明瞭に見られる（『一九一三年及び一九二五年—二八年の英帝國の貿易についての報告』、一九三〇年）。この報告は『英帝國の貿易』の増加の輝しい姿を描き出さうと努力してゐるが、それによれば、一九一三年から一九二七年までに世界貿易の平均増加が二〇%であるに對し、英帝國の貿易は同一期間内に二七%だけ増加したことが認められる。だがこの自畫自讚がいかに空虚なものであるかは、『英帝國の貿易』などいふ無意味な總額の代りに、本國 (United Kingdom) と植民地 (自治領及び植民地) との間の諸關係を分析して見れば、すぐに曝露される。この關係のうち今日のイギリス世界帝國の二つの基礎的な對立傾向が現はれてゐるのだ。

第一の傾向は、すでに戦前から認められてきたが戦後一層著しくなつてきたもので、即ち植民地が本國から離れて行く遠心的傾向である。イギリス植民地の總輸入のうち、イギリスの占めてゐる割合は一九一三年の四四・七%から一九二七年には三六・一%に減少し、他の諸國の占めてゐる割合は四四・三から五〇・八%に増加した。植民地の總輸出のうち、イギリスの占めてゐる割合は五

二・五%から四一・二%に減少した。かくて帝國內に於けるイギリスの今なほ支配的獨占的な地位はすでに全體としての世界の他の部分に對しては少數者の地位に轉じてゐる。そして初めて一年乃至二年以來、イギリス植民地の貿易の主要部分がイギリス帝國に屬せぬ諸國との間に行はれるやうになつたのだ。

だが第二の傾向は、第一の傾向に劣らず重要なものではあるが、しかもそれとは正反對の方向に向つてゐる。この第二の傾向は、その輸出の販賣市場としてまたその輸入の源泉としての植民地に對するイギリスの寄生的依存性の増大である。イギリスの總輸出のうち植民地の占めてゐる割合は一九一三年の三七・二%から一九二七年には四六・一%に増加してをり、イギリスの總輸入のうち植民地の占めてゐる割合は二〇・五%から二七%に増加してゐる。

かうして植民地は——特にその地のブルジョアが或る程度まで獨立し得るやうな植民地即ち自治領、だが程度こそ低けれその他の植民地も亦た——、一方に於て、弱つたために工業生産物や資本輸出の中心としての役割を益々果し得なくなつてきた本國から愈々遠く離れて行く。

他方に於てイギリス帝國主義は、指導的工業國としての自己の地位を失へば失ふほど、また世界市場に於ける競争能力が少くなればなるほど、益々販賣市場や原料源泉に關して植民地の防壁によ

つて自己を支へざるを得なくされ、特典や政府の統制や補助金や制限やイギリス世界帝國內に於ける貿易協定やその他色々な形態の獨占的特權によつて、植民地を益々自分に結びつけやうと努力する。

これらの傾向、即ち植民地の遠心的傾向と本國の寄生的依存性の増大との間の矛盾の絶えざる増大は今日イギリス帝國主義にとつて困難なディレンマである。

そしてこのディレンマに當つて最も困難なことは、イギリス世界帝國へのアメリカの侵略が益々強くなつて行くことだ。

それぞれの植民地の貿易にイギリスの占めてゐる割合は一年々々減少し、それと同時にアメリカの占めてゐる割合は増大する。イギリス帝國主義が弱くなり、アメリカ帝國主義が益々上向すると同じ程度で、後者の勢力は植民地を自分の方に牽きつける。だがすべての障害の決定的な崩壊と世界の再分割とは武力的決算がなくては起り得ない。このことが世界帝國主義の今日の情勢に於ける本質的な點である。

すでに數年以來、アメリカが益々自治領に、特にカナダに、また或る程度までオーストラリアにも侵入してこれらの諸國を支配してゐることが認められた。最近イギリスの大工業家で政治家であ

るロバート・ホーン卿は或る演説で次のやうに述べた。

『これらの平和な地方（自治領）までが、世界の他のすべての部分でも吾々を犠牲として利潤をあけたアメリカ合衆國の脅威的な競争に強く襲はれた。』（『タイムズ』一九三〇年二月二十七日）。

またアメリカの評論家エフ・サイモンズは、一九二七年にアメリカの『評論の評論』で次のやうに聲明した。

『もし吾々が地圖を眺めるならば、すべての地理上の根據は明かに、他日吾々が英語を話す世界の中心とならねばならないことを物語つてゐる』。

故人となつたオーストラリアの首相ブルースも亦た、一九二六年にペーチ追憶演説で次のやうに聲明した。

『オーストラリアの人民がアメリカに對して自然の同感を抱くといふことは、必らずしも怪しむに足らぬ。オーストラリア憲法は合衆國の憲法を模倣したものである。彼我の間には同一の發展問題がある。またそれ以上に兩國を結びつけてゐるのは、餘りに文明化し過ぎたヨーロッパに屢々起る紛糾に對して不干渉政策をとるといふ精神上的主義の類似であつた。オーストラリアの人民は、アメリカが十八世紀に自由の鐘を打鳴らしたとき、これこそ同時に吾々の時代に於けるす

べてのイギリス自治領の解放の準備であると感じた』。

これに類する意見をあげてゐたら百でもあけられるだらう。

だが今日現はれてきた決定的な新しい特徴は、アメリカのかうした侵略が單に自治領に手を伸したばかりでなく、本來の植民地にも、亦た殊にイギリス帝國主義の搾取制度の中心點たる印度に益々手を伸してきたといふことだ。

印度の場合は、それがイギリス帝國主義の樞軸であり、益々英米對立の中心點となりつゝあるのだから、特に取上げてよからう。

吾々はすでに、イギリスのインド貿易がいかん減少しアメリカのそれがいかん増大したかといふことを確認した。印度の輸入のうちイギリスの占めてゐる割合は、一八七五年の年七七%から一九一三年には六四%に、一九二八―二九年には四五%に減少してゐる。アメリカの占めてゐる割合は、一九一三年の二・五%から一九二八―二九年には七%に増加してゐる。だからイギリス帝國主義のこの最後の獨占的な壘に於てアメリカの占めてゐる大きさはまだ小さなものだ。しかしその増大の率は大きい。

同時にアメリカ資本の印度侵入も亦た益々前面に現はれてくる。ロンドン『タイムズ』の印度經

濟問題通信員エー・チャタートンは次のやうに書いてゐる。

「アメリカの印度貿易總額はすでに大英帝國との貿易の價値の約三分ノ一に達し、なほ絶えず増加しつつある。極く最近アメリカ當業者は、ボンベイやデカンに水と燈火とを供給する水力會社の團體を統制してゐる株式會社の株の半數を獲得した。……印度は外國に投資する外ないアメリカの巨大な過剰資本の投資にとつて有望な場面を與へるものであつて、すでにこの方向への運動の徴候が現はれてゐる」(『タイムズ』一九二九年九月十日)。

合衆國船舶局は直接米印航路を開き、これがために、アメリカはイギリスのかけがへのない印度航路獨占到關入した。これについて『タイムズ』の海運専門家は憤慨して次のやうに書いてゐる。

「合衆國のあらゆる方策は、今やイギリス資本家の諸企業を打倒することに向けられてゐる。……イギリス及び印度政府はこの注目すべき發展を決して無視してはならないだらう。」(『タイムズ』一九二八年一月二十日)。

印度市場に於ける英米の石油戰爭の發展や、印度で販賣するために「スタンダード石油」がサヴェト・ロシアの石油を買附けたことも亦たこれに劣らず重要である。

この發展と平行してその政治的な反映は、アメリカ帝國主義の諸機關紙の上に現はれ、これらの機關紙は益々著しい注目を拂ひ「好意的」關心を示してゐる。これらの諸機關紙は、イギリス帝國主義から獨立するための印度の闘争に關して、ブルヂ・ア的な民族主義運動の報導として許され得る最大の自由を持つてゐる(イギリスの新聞は、印度政府の嚴重な記事檢閲のために、印度民族主義に關する自分の報導を屢々アメリカの特派員から取つてゐた)。さうだ、遂には「自由と獨立とを獲得するために闘争しつゝある印度國民の支持」を要求し、合衆國大統領に「彼が印度の主權と獨立とを認めることを適當と考へるときいつでも」彼を支持することを保證する決議がアメリカの上院で討議されるやうなことにまでなつたのだ。最近アメリカの諸新聞の論説は、印度の獨立は合衆國の經濟的利益だといふことを公然發表してゐる。アメリカ帝國主義の擄取欲は遂に一切の假面を脱ぎ棄てたのだ。印度解放のための眞の大衆的闘争は明かにこれら兩帝國主義を打倒するだらうといふことは、今までのところ、アメリカもイギリスも勘定のなかへ入れてゐない。だがイギリス植民地へのアメリカの侵入が増大する過程は、經濟的侵略といふやうな單純な「平和的な」過程ではないし、またそんなものではあり得ない。それは反對に獨占資本主義の全武器を盡して遂行され決定的な點になれば不可避的に武装戰爭に移行せざるを得ない武力的過程なのだ。イギリス帝國主義の地位が弱い寄生的なものになればなるほど、またそれが自分の古くからの確乎たる優越的な力

の獨占を維持することができなくなればなるほど、イギリス帝國主義益々自己の地位を守るために舊式な自由貿易——それはたゞ確乎たる獨占の表現に過ぎなかつた——を放棄して、例外としての武器庫に血路を求めるとを餘儀なくされる。「英帝國の封鎖」とか「英帝國の經濟的統一」とかいふ見解が、イギリスの政治上に支配的になり、世界經濟恐慌の發展以來益々前面に現はれてゐる。ビーヴァーブルックやロザミアがやつた「帝國内自由貿易」のための（即ち英帝國の周圍に保護關稅壁を設けるための）カンバーニャは、日々數百萬の發行數を持つ愛國主義的新聞といふ有力な機關によつて活潑に宣傳されてゐるが、それはたゞ現實の政策を飾りなく表現してゐるだけのものだ。保守黨は次の諸項目を含む自己の綱領を發表した（一九三〇年二月のポールドウィンの聲明）。一、保護、二、英帝國內部に於ける諸特典、三、英帝國內部に於ける合理化、四、英帝國內部に於ける協力。そのために自治領との間の了解を得る基礎として食料品關稅の困難な問題について一般投票を行ふこと。労働黨は、「全國的規模に於ける大量購入」及び「帝國による貿易の集中化」に關する綱領を作成した。これは根本に於て同一の保守的帝國主義政策を隱蔽する「社會主義的」な扮装以外の何物でもない。イギリス資本主義の積極的指導者たるメルチット卿（以前のモンド卿）は、「英帝國の經濟的統一」について新たに本を一冊出したが、そのなかで彼は「本國と英帝國

内の他の部分とで互に競争してゐる工業の間に了解を促し、殊にその工業が保護關稅によつて促進されねばならないものである場合にはなほ更らその必要がある」ことを述べてゐる（即ち印度その他の植民地は元より自治領をもイギリス工業の原料源泉や販賣市場として常に従屬せしめておくために抑壓することだ）。イギリス工業家聯合會は、その今年度全國大會が、「帝國を經濟的に不健全な工業の桎梏から脱せしめるために、英帝國の工業生産をできるだけ合理化するための諸方策」を討議することを求めてゐる。同時に政府の活動も強化した。マクドナルド政府は、「吾等の西敵」に對してイギリスの利益を代表するためにその大臣トーマスをカナダに派遣した。ダルバーノンの南米派遣の結果は、アルゼンチンとの特殊の貿易協定となり巨額の公債の發行となつた。全國的規模に於ける貿易發展のために更らに資金を支給することや、海外輸出貿易のために新官廳を設けることなどが發表されてゐる。

これらのすべては、明かに戰爭切迫情勢にあつての諸方策だ。合衆國は合衆國でまた未曾有の最高關稅を準備してをり、政府代表や國外領事館の組織を倍加した。イギリス帝國主義が「英帝國封鎖」主義を宣言すれば、合衆國は「門戸開放」主義を宣言する。對立は戰略上の衝突と公然たる武装闘争の直接の準備の問題とが益々近く迫つてくる段階に達したのだ。

二 南アメリカに於ける英米の闘争

〔エム・コーガン「世界經濟恐慌に照して見た南アメリカに於ける英米の闘争」、
IPK一九三〇年八月二十二日〕。

決定的な帝國主義列強の最重要な決定的な對立は、合衆國とイギリスとの間の對立だ。闘争は販賣市場を再分割するため、原料源泉を獲得するため並びに完成商品の販路や資本輸出のための勢力範圍を獲得するために行はれてゐる。南アメリカ、支那並びに舊帝國主義列強の植民地や自治領はこの闘争が第一に行はれる地域だ。

英米の闘争の新段階を條件づけてゐるものは、世界經濟恐慌の成熟であつて、何よりも先づ合衆國の恐慌の尖鋭化とすでに恐慌の初期の段階に入り込んでゐるイギリス經濟生活の慢性的停滯とである。

英米の闘争のこの段階の特色は、「平和的・經濟的な」闘争（商品及び信用ダンピングの形をとる）が、政治的な闘争、即ちあちこちの屬國や植民地の民族的ブルヂェ・ア諸黨派を傀儡として行はれる帝國主義——合衆國とイギリス——の直接の相互反撥へと成長して行くことだ。

南アメリカは、非常に豊富な食料や原料の豫備をもつてゐるのに、資本の流入の弱いためにそれが比較的僅かしか利用されてゐないのだが、この南アメリカは資本主義的な勢力の伸張に大きな可能性を與へる。イギリスと合衆國との間の經濟的・政治的な競争の結果は、南アメリカでは、一九二九年は合衆國の勝利をもつて終つた。「誰が誰をか？」といふ問題は、南アメリカでは、まだ合衆國に有利には決定されてゐない。そして震撼されてはゐるが、いままは強力なイギリス帝國主義の勢力を過小評價するのは、重大な誤謬だらう。

合衆國は、南アメリカの諸共和國の投資高の増加速度や貿易諸關係の發展では、疑ひもなく牛耳つてゐる。だが絶對的な總額では、イギリスはいまなほアメリカの南米投資高の二倍を持つてゐる。次の表は、マックス・ウインクラーの著書「ラテン・アメリカに於ける合衆國の資本投下」から借りたものだが、南アメリカに於ける勢力關係を壓縮された形で示してゐる。

投資高（單位百萬弗）

外國貿易取引高増加率

| 國名 | 合衆國 | イギリス | 合衆國 | イギリス |
|----|-------|-------|-----|----------|
| | 一九二五年 | 一九二九年 | 増加率 | 一九二五—二九年 |
| | 一九二五年 | 一九二九年 | 増加率 | 一九二五—二九年 |

第二部 帝國主義的對立の尖鋭化

二 南アメリカに於ける英米の闘争

| | | | | | | | | |
|-----------------|-----|------|-------|-------|-------|---------|------|----------|
| アルゼンチン | 四〇 | 六二 | 一、四九 | 一、八六一 | 二、二四〇 | 二、五〇〇 | 一、九六 | 五、〇〇 |
| ブラジル | 香 | 四七六 | 八五二 | 一、二六二 | 一、四一三 | 二、一三四 | 一、〇四 | (減) 一、〇〇 |
| チリ | 一五 | 三九六 | 二、六〇五 | 三、三三三 | 三、九〇〇 | 一、七二五 | 一、〇四 | 五、五 |
| コロンビア | 二 | 二六〇 | 三、九七 | 四 | 六 | 九九 | 五〇 | 二、九二 |
| ヴ・ネズエラ | 三 | 一六二 | 五、二五二 | 四 | 六 | 二二八 | 二六二 | 一、〇一七 |
| ペルー | 三 | 一五一 | 三、三三三 | 三、三三三 | 四 | 五七 | 三、七 | 八、二 |
| ボリヴィア | 一〇 | 一三三 | 一、二三四 | 二 | 三 | 四、六〇 | 四七 | 一、六〇 |
| ウルガイ | 五 | 六 | 一、一七 | 二四〇 | 二七 | (減) 九、四 | 二四七 | 五、八 |
| エクアドル及び パラガイ | 三 | 四〇 | 二、一〇 | 三〇 | 四 | 三、一 | 一 | 一 |
| 南アメリカ 總計 | 一七三 | 二、九四 | 一、一三六 | 三、八三五 | 四、四八五 | 一、七〇 | 一、〇 | 一、四〇 |

これで見ると、資本投資高の増加や外國貿易取引高の増加のテムボでは、南アメリカのすべての地域で例外なく合衆國が勝つてゐることは明かだ。更らにこれらの數字は、南アメリカの決定的な諸國、即ちアルゼンチンとブラジルとは、依然としてイギリスが支配してゐることをも示してゐる。一九二九年にイギリスの投資高は、アルゼンチンでもブラジルでもアメリカの投下資本の三倍

半に達してゐた。イギリスの南アメリカへの全投資高の七一％は、アルゼンチンとブラジルとに投下されてゐる。この二國が南アメリカ大陸に於けるイギリスの大黒柱だ。同時に經濟的に最も重要なのもこの二國だ。

ブラジルは國際珈琲輸出の第一位にあり、コ、ア、ゴム及び煙草の輸出では第二位にある。アルゼンチンはこれまで常に南アメリカで經濟的に最も發達してゐる共和國だつた。

ウルガイとパラガイとを除けば、南アメリカの他のすべての共和國を支配してゐるのはアメリカの資本である。一九二九年に、アメリカの投資高はイギリスを凌駕すること、コロンビアでは五八四％、ボリヴィアでは九二三％、ヴ・ネズエラでは七六・一％、ペルーでは七・一％、チリでは一・五％だつた。

南アメリカの經濟恐慌は、工業恐慌と農業恐慌とが緊密に纏れ合つてゐることを特色としてゐるが、一聯の南アメリカの諸共和國で、この恐慌は今日經濟的崩壊に轉化してゐる。

南アメリカの經濟恐慌が特に鋭い形をとりまた程度が大きかつたといふことは、南アメリカの經濟の構造に條件づけられてゐる。それは、同志マヌイルスキーが一九三〇年二月に詳論した通り、三種類の社會制度、即ち奴隸制度の殘滓、封建主義の殘存物及び金融資本による最新の搾取形態が

5
12

纏れ合つてゐることを特色としてゐる。南アメリカ「工業化」の過程は、帝國主義が南アメリカの諸共和國の原料産業や加工工業を完全に統制してゐるといふ特殊事情の下に進行してゐるが、この過程は同時に恐慌の現象形態が特に尖鋭化するのを促進する。南アメリカの工業は、全體として次の主要モメントによつて特徴づけられてゐる。加工々業方面では、必需品を生産する諸部門（輕工業）が支配的だ。生産手段を生産する諸部門（重工業）、何よりも先づ所謂「近代的」工業諸部門（化學、電氣工業等々）は、小さな役割しか演じてゐない。原料産業（鑛業）が大多數の南アメリカの諸共和國の經濟生活に於て決定的な役割を演じてゐる。即ち、チリー（硝石と銅）、ボリヴィア（鉛）コロンビア（石油、石炭）、ペルー（石炭、褐炭及び石油）ヴェネズエラ（石油と石炭）、ブラジル（マンガン鑛）、エクアドル（石油）等々。南アメリカの諸共和國の原料生産及び加工々業は、外國帝國主義、どこよりも先づ Yankee 帝國主義とイギリスとによつて統制されてゐる。

アルゼンチンでアメリカとイギリスとの資本が、この國の肉罐詰工業、石油工業、セメント工業及び自動車工業を統制してゐることは周知の事實だ。ブラジルではアメリカの資本が鑛業（マンガン鑛、金、銀、水晶、雲母）を、イギリス、アメリカ及びドイツの資本が化學工業を統制してゐる。鐵及び鋼鐵生産（ミナス・ヂ・ヂェス州のイタル製鐵所）は、イギリスとアメリカとの資本によ

つて統制されてゐる。同様に一聯のブラジル纖維會社も亦たイギリスの掌中にある。

チリーでは、國民經濟は本質的に硝石及び銅生産に依存してゐるのだが、それらは北アメリカの大コンツェルンによつて統制されてゐる。

同様に、コロンビアやヴェネズエラやボリヴィアやペルーやエクアドルの鑛物富源も、外國資本大體に於てイギリスとアメリカとの資本の掌中にある。何よりも先づこれらの諸國の油田は、スタンダード石油の支店によつて統制されてゐる。

南アメリカの諸共和國の農業は、耕作形態の雑多なことや、粗放耕作形態と集約耕作形態とが獨特に纏れ合つてゐることや、奴隸制度に似た小作形態を特色としてゐるが、非常に鋭い農業恐慌のために完全に癡痺させられてゐる。南アメリカの諸共和國の農業恐慌を條件づけてゐるものは、一方に於ては、植民地商品や原料（珈琲、コカ、甘蔗糖、ゴム）の過剰生産——それは世界恐慌の影響でなほ一層強められる——であり、他方に於ては、合衆國の經濟恐慌と世界經濟恐慌との諸結果——一聯の穀物産業や畜産業の産物（小麥、羊毛、皮革等々）の鋭い價格崩落である。

工業恐慌が、成長しつつある世界經濟恐慌を基礎として農業恐慌とぶつかつて纏れ合つてゐるといふことが、この恐慌に鋭い慢性的な性質を與へ、南アメリカの經濟生活の全矛盾（發展の不均等、

生産の増大と資本主義的分配の狭隘な基礎に縛られてゐる支拂能力ある需要の増加との間の矛盾を展開させ、南アメリカの諸市場を支配しやうとする合衆國とイギリスとの競争戦に特に狂暴な形態や方法をとらせる條件となる。

南アメリカに於ける英米の闘争で目新しいことは、經濟的闘争が政治的闘争に成長したることだ。一九三〇年の初めにブラジルの大統領選挙を前にして、サン・パウロ州の「珈琲」候補者とニナス・デ・ラエス州の工業候補者との間に展開された闘争、アルゼンチンのイロギエンと「反対派」との間の闘争——これらすべては南アメリカの支配のためにイギリスと合衆國との間に行はれた闘争の諸段階である。特に重要なのは、今年七月のポリヴィアの人形芝居的革命だ。闘争は形式上は「嫌惡的たる」大統領シレス（アメリカ黨）と「民族的指導者」ブランコ・ガリンド將軍（イギリス黨）との間に行はれたが、この革命の原動力はイギリスとアメリカとの帝國主義だつた。

アメリカの「日刊労働者」はこれについて七月三十日に次のやうに書いた。「シレスはアメリカ帝國主義の代理人で「ディロン・リード」銀行の金融委員會の指令によつて行動し、ワシントン政府からも承認されてゐた。オルローの「反対派」運動はブランコ・ガリンドの指導下に行はれた挑戦であつて、彼は「民族主義」の假面に隠れてイギリスの利益を代表してゐた」と。

勿論ポリヴィアの革命の結果は、合衆國とイギリスとの間の勢力關係にとつては重要ではない。だが南アメリカに於ける英米の闘争のテムボが強化し、方法が尖鋭化するところを見ると、この革命は特に不吉な意味を持つてゐる。

英米の諸對立の難關は、南アメリカに特に脅威的に集中してゐる。新しい世界戦争が世界のこの地點から出發するやうなことは可能である。

5
17

5
12

昭和五年十一月十二日印刷
昭和五年十一月十七日發行

—(2) 書叢濟經界世一—

(定價金八拾錢)

各丁總丁は何時でも取寄へ可也

譯者 經濟批判會

發行者 足助 かつ

發行所 東京市麴町區四番町九番地
叢文閣

振替東京四二八八九番
電話九段二五六八番

印刷所 東京市小石川區關口水道町四十六番地
成章堂印刷所

音成貞吉

ウアル方著 經濟批判會譯 世界經濟年報

| | | | | | |
|------|----|--------------|-----|------|------|
| 第一輯 | —— | 一九二七年上半年に於ける | —— | 送定料價 | 〇九八〇 |
| 第二輯 | —— | 一九二七年下半年に於ける | —— | 送定料價 | 〇〇八〇 |
| 第三輯 | —— | 一九二八年上半年に於ける | —— | 送定料價 | 〇〇八〇 |
| 第四輯 | —— | 一九二八年下半年に於ける | —— | 送定料價 | 一〇〇〇 |
| 第五輯 | —— | 一九二九年第一期四半年 | —— | 送定料價 | 〇八六〇 |
| 第六輯 | —— | 一九二九年第二期四半年 | —— | 送定料價 | 〇八六〇 |
| (7) | —— | 一九二九年 | III | 送定料價 | 〇九八〇 |
| (8) | —— | 一九二九年 | IV | 送定料價 | 〇〇八〇 |
| (9) | —— | 一九二九年 | I | 送定料價 | 〇九八〇 |
| (10) | —— | 一九二九年 | II | 送定料價 | 〇七六〇 |

經濟批判會編 世界經濟叢書

| | | |
|-----------------|------|------|
| 一九三〇年世界經濟恐慌 第一輯 | 送定料價 | 〇八八〇 |
| 一九三〇年世界經濟恐慌 第二輯 | 送定料價 | 〇八八〇 |

5
14

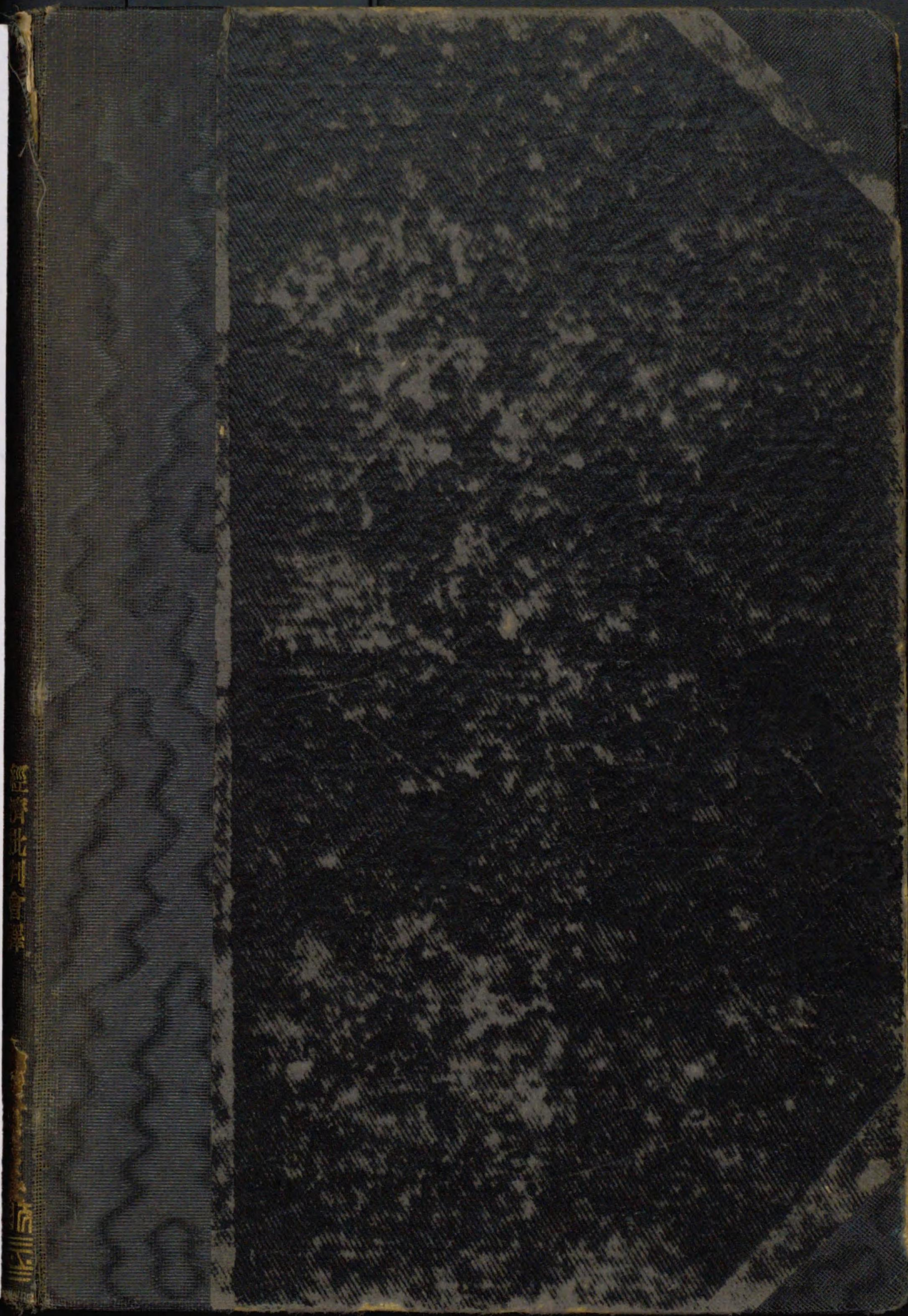
51
14

51
14

51
14

¥ .80

515
143

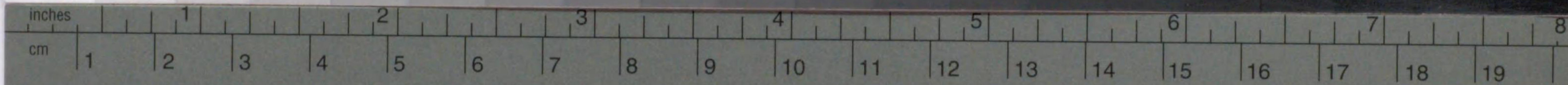


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

